

事後評価報告書

CONCERT-Japan プロジェクト(欧州連合(EU)との日本-EU 共同研究)「災害に対する回復力」領域
(支援期間:平成 25~26 年度)

1. 研究課題名: 「Risk assessment and design of prevention structures for enhanced tsunami disaster resilience(津波の防護とリスクアセスメントに関する研究)」

2. 研究代表者名:

日本側: 国立研究開発法人 港湾空港技術研究所 客員研究官 中村 由行

相手側: ノルウェー地盤工学研究所 津波研究リーダー Carl Bonnevie Harbitz(ノルウェー)

ブラウンシュウバイク工科大学 上級研究員 Kortenhaus Andreas(ドイツ)

中東工科大学 土木工学科 海洋工学研究所長 Yalciner Ahmet Cevdet(トルコ)

3. 総合評価: B

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

本研究は、日欧を代表する4か国の津波研究機関が津波被災地の合同調査を実施し、それに基づく沿岸構造物の被災メカニズムの解明と津波被害の減災手法を構築することを目的としている。日本、ドイツ、ノルウェー及びトルコにおける4か国の研究機関の特性を活かし、GIS やリモートセンシング技術を用いた津波被害ならびに復旧状況を分析できるソフトを開発し、共同研究の結果を9編の文書に取りまとめている点は具体的な成果として評価できる。但し、終了報告書が提出された時点では国際学術誌などへの論文発表がなされていないことは残念であり、今後、共著論文の形での発表も期待したい。

(2)交流活動の評価について

日本、ドイツ、ノルウェー及びトルコを代表する研究機関と研究者の交流を通して、共同研究のネットワークが構築されたことの意義は大きい。また、研究参加者以外にも交流のネットワークが広がっていることから、今後の共同研究の展開に期待が持てる。一方で、4か国間の多様な研究交流ではあったが来日した研究者は各国1名ないしは2名に留まっていることから各国の個別研究の推進にウエートが置かれた感があるため、今後の更なる研究者の交流促進を期待したい。

(3)その他

日本側の研究代表者および研究者の一名が、現所属研究機関から異動することが予定されているが、今後も各組織間の連携をしっかりと継続していくことが望まれる。